

**断熱性能等級1から等級7に、従来の最高等級4が義務化等級!**

新省エネ基準は「等級4」が義務化基準ですが、この基準は2030年までで、その後は「等級5」のZEH(ゼッチ)基準が義務化になります。4月の「省エネ基準」の施行前に住宅を建てる場合もZEH基準の「等級5」以上、できれば「等級6」で建てることを奨めます。等級4を選択した場合は、新築後5年で旧基準の住宅になるからです。不幸にも住宅を手放す場合、新築5年等級と旧基準4等級、ましてや等級6では、評価額にかなりの差が生じます。等級5の「ゼッチ基準」は自活エネルギー源の設置も含まれていますが、現在の経費が必要で、建築費や設備費がプラスになるとはいえZEHです。電気料金が0円は、大きなメリットになります。いずれにしても2030年にはZEHが標準化されるので「太陽光発電」は必需品です。早めの設置が後々

**■戸建住宅の断熱等・性能等級2~7の基準**

等級	地域区分(主要都市)	2025年改正予定							
		1(少気等)	2(札幌等)	3(仙台等)	4(金沢等)	5(水戸等)	6(鹿児島等)	7(鹿児島等)	8(沖縄等)
等級7(戸建住宅)	UA	0.20	0.20	0.20	0.23	0.26	0.26	—	—
	gAC	—	—	—	—	3.0	2.8	2.7	—
等級6(戸建住宅)	UA	0.28	0.28	0.28	0.34	0.46	0.46	0.46	—
	gAC	—	—	—	—	3.0	2.8	2.7	5.1
等級5-ZEH基準	UA	0.4	0.4	0.5	0.6	0.6	0.6	0.6	—
	gAC	—	—	—	—	3.0	2.8	2.7	6.7
等級4	UA	0.46	0.46	0.56	0.75	0.87	0.87	—	—
	gAC	—	—	—	—	3.0	2.8	2.7	6.7
等級3	UA	0.54	0.54	1.04	1.25	1.54	1.54	1.81	—
	gAC	—	—	—	—	4.0	3.8	4.0	—
等級2	UA	0.72	0.72	1.21	1.47	1.67	1.67	2.35	—
	gAC	—	—	—	—	—	—	—	—

**●アメリカ・標準新有効温度(SET\*)の温熱指標**

- 1.気温 22.2℃~25.6℃
  - 2.気流 1.0m/s~0.15m/s
  - 3.相対湿度 40%~60%
  - 4.放射熱 MRT=気温
  - 5.着衣量 0.6clo
  - 6.代謝量 1.0~1.2met
- ASHRAEが標準化している数値

アメリカの住宅基準、この5項目の数値を満たす住宅が求められる。数値基準だけでなく性能が重視される。

**●イギリスの室内環境基準**

21℃ ◎ 昼間の居間の最低推奨室温  
18℃ ○ 夜間の寝室の最低推奨室温  
~18℃ △ 血圧上昇、循環器系疾患の恐れ  
~16℃ △ 呼吸器系疾患に対する抵抗力低下  
5℃ X 低体温症を起こす危険大  
4~8℃ X 集団レベルで観測される死亡増加する平均外気温の閾値(いきち)

イギリスの場合も室内環境基準が住環境の主要な指標になっている。WHOは18℃以上を最低室温としているが、イギリスの場合は、昼間気温21℃、寝室最低気温を18℃以上に設定しています。

# 来年4月から「省エネ基準」義務化!

ベターになりそうです。施工技術と科学的な知識がないと高性能住宅は危険要素になる? 等級6・等級7という高性能基準が公開されると、我が社は最高等級7で施工します。」と

この断熱性能は、高くて良いものも有れば、むしろ悪いものが多いからで無駄なお金がかかります。建設地の気候風土を綿密に調べ上げ、それに合わせて建てられる等級6や等級7の住宅であると思いが、中には、名ばかりの等級6や等級7も存在します。住宅の高性能化は、数値だけ合わせるのなら、簡単に施工可能です。外皮(壁面)の断熱材を、等級6や等級7が要求する断熱性能で施工し、開口部等もそれに合わせます。これで数値を合わせて選択すれば、名ばかりの最高等級は可能になります。このような住宅は後々「欠陥住宅」と呼ばれかねません。

**住宅性能を気象庁の気象用語を参考に考えて見ると?**

気象庁の気象用語では、最高気温が35℃以上の日を猛暑日、30℃以上の日を真夏日、25℃以上の日を夏日、0℃未満の日を真冬日といいますが、最低気温が0℃未満の日を真冬日といいますが、夏の熱帯夜とは、夕方から翌日の朝までの最低気温が25℃以上になる夜のことをいいます。この温度を記憶しておく、住宅性能のかなり部分が理解できます。ついでに「気象」には、通常の気象の他に建物内の気象である「室内気象(気候)」と「寝床内気象(しんしょうないきしやう)」などもあります。寝床内気象とは布団の中の気象のことです。

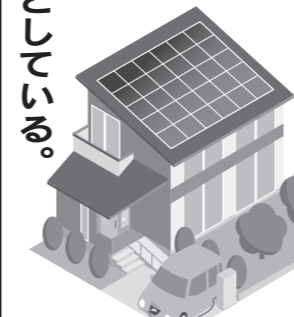
**高性能住宅で間違えるのは、冬の室内温度?**

冬の室内温度は最低18℃、理想的には20℃です。室温25℃以上だと冬に「夏の不快な熱帯夜」を再現することになり危険です。室温25℃の「熱帯夜」は、冬でも大きな問題です。オーバークヒート(冬の熱帯夜)の多くの場合、窓から取得した日中の熱のコントロール不良でおこります。日本の住宅先進地、北海道では、高断熱化の弊害として今でもオーバークヒート対策が欠かせません。真冬に、Tシャツ・半ズボンで「ビールやアイスクリムがおいしい」という家は典型的なオーバークヒート住宅です。室温30℃の家から、薄着のままで5℃の外に出たら「ヒートショック」を引き起こす危険があります。住宅の高性能化が始まると、このような冬、暑すぎる問題や寝苦しい問題が噴出してきます。それは、気象庁の用語で示したように、夏ではなく、真冬の住宅の中で最も寝苦しい過酷な夏を再現してしまう危険があるからです。高性能住宅の実現には付け焼刃の技術ではなく、本物の施工技術が必要です。「冬の室温18℃以上、21℃、夏は25℃、28℃」等級に関係なく、これが実現できる住宅が「高性能住宅」といえる住宅です。

とにかく最高等級に感われないことです。数値だけなら素材をそろえれば実現します。目的が経済的で健康に寄与できる住宅とすることであれば、施工店の施工力にご注目ください。松下建設はハウス・オブ・ザ・イヤーの大賞を受賞九州の住宅性能の向上を考えてきました。是非一度、最寄りの展示場を見学ください。お待ちしております。



発行人 松下建設  
発行人 松下拓也  
編集責任 齋藤恭誠  
本社  
〒891-0108  
鹿児島市中山1丁目14-29  
TEL 099-267-7594  
0120-079-089



## 川内モデルハウス 好評公開中!!



**快適性と共に、優れたデザイン性にもご注目ください!**

平屋住宅でありながら「スキップフロア」など、他では見かけることが出来ない印象的なデザイン性の展示場が完成しました。松下建設の展示場は、20世紀建築界の巨匠として名高いアメリカの「フランク・ロイド・ライト」の設計手法をリスペクトしています。「スキップフロア」の下部は、物置になっているなど、随所に、生活の利便性に工夫をこらした、設計力を感じさせる仕掛けが組み込まれています。ライトの旧帝国ホテルは現在、愛知県犬山市の明治村に玄関部分が移築されて残されていますが、関東大震災の直前に建てられたにも関わらず、今でも多くの示唆を与えられる建物です。「川内モデルハウス」は「鹿屋モデルハウス」同様、松下建設が開発した「循環空調システム」を搭載した、空気質の綺麗な快適な住宅ですから、ご家族お揃いでお気軽にご体感ください。



## 鹿屋モデルハウス 好評公開中!!



**松下式「循環空調システム」モデルハウスが鹿屋市に完成!**

松下建設が開発し、多くのお施主様に指示されてきた松下式「循環空調システム」のモデルハウスが鹿屋市に完成いたしました。このシステムは、エアコン1台で暖冷房が可能なほか、TV広告の「エアードック」と同等システムが空気清浄機としてビルトイン搭載されており、室内空気が循環すればするほど清浄化するという優れた「循環空調・空気清浄」システムです。松下建設の構造耐は、国土交通省の外郭団体が主催する日本の高性能・省エネルギー工法の表彰制度「ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エナジー」の大賞を2度受賞している優れた工法です。是非、ご家族の皆様と共に鹿児島県の住宅の進化と共に、最新の住宅工法の快適性を体感してください。



住宅に関する資料等もフリーダイヤルにてご請求下さい。資料等をお送り致します。0120-079-089